

## 平成21年度地域スポーツ指導者育成推進事業 取組事例

都道府県名 滋賀県 受託団体名 滋賀県広域スポーツセンター

事業テーマ 次世代を担う子どもといきいき活動する高齢者のスポーツライフ実現を目指し、それを支える人間性豊かな質の高いスポーツ指導者育成システムの構築

### 【テーマ設定の理由】

人生の中でスポーツとの出会いの時期である子どもと社会の中心となる高齢者に焦点を当て、この二世代がスポーツを生活に取り入れ、活力ある世代に育てることが、本県地域スポーツの発展と生涯スポーツ社会の実現のため実施する。

### 地域スポーツ指導者育成推進委員会

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 豊田則成(びわこ成蹊スポーツ大学教授)     | 7 奥村晋一(県体育協会普及委員会委員長)     |
| 2 伊藤紀子(県体育指導委員協議会会長)      | 8 桐山栄(県体育協会選手強化委員会委員長)    |
| 3 清水重夫(県スポーツ指導者協議会会長)     | 9 北村太郎(県健康づくり財団常務理事)      |
| 4 前山亨(県レクリエーション協会会長)      | 10 井下英二(県健康推進課健康づくり支援室室長) |
| 5 柴田光男(県スポーツ少年団指導者協議会会長)  | 11 勝見直樹(県教育委員会スポーツ健康課参事)  |
| 6 関原克己(総合型クラブ東近江市連絡協議会会長) |                           |

受託団体名 財団法人滋賀県体育協会 滋賀県広域スポーツセンター

### 【受託団体概要】

- ・設立年月日 平成 14 年 4 月 1 日 設立
- ・所在地 滋賀県大津市御陵町4-1 県立スポーツ会館2F
- ・特色
  - ・総合型地域スポーツクラブの育成支援事業の展開
  - ・スポーツ指導者の育成支援事業の展開と情報提供サービスの実施
- ・職員数(H21.7.1現在) 3 人
- ・平成21年度総予算額 6,279,000 円

### 協カクラブ(団体)

- |               |                      |
|---------------|----------------------|
| ■ 県スポーツ指導者競技会 | ■ 県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 |
| ■ 県スポーツ少年団    | ■ 県体育指導委員協議会         |
| ■ 県健康づくり財団    | ■                    |

### 【上記機関・団体と連携をとった効果】

各講習会の参加者募集等の協力をいただき、

## ①地域スポーツ指導者育成推進委員会

### ◆実施概要

6月、8月、2月の年間3回実施し、平成21年度の事業展開について検討、今後のスポーツ指導者登録制度の展開について検討や、より地域に密着した事業にするため地域拠点スポーツセンター設置とエリア別運営委員会の活用について検討を行った。

### ◆活動の様子



### ◆評価

今後、事業を展開していく上で、より地域密着型になるよう、各エリアのスポーツ関係者から様々な意見を聞くためエリア別運営委員会を開催したことにより、各地域の課題等が発見できた。

## プログラム作成部会

### ◆部会のねらい

地域や住民のニーズに的確に応じることができる指導者育成プログラム内容作成とシステムの構築。

### ◆実施概要

育成推進委員会開催と同時に年間3回実施した。基礎講習Ⅰについては内容は決まっているのでテキストの標記などについての修正・検討。基礎講習Ⅱについては、各エリア別運営委員会の意見などを参考に、指導現場で必要としている内容4講座を実施した。

### ◆活動の様子



### ◆評価

指導者を必要としている総合型地域スポーツクラブ関係者や学校関係者が、指導知識の必要性を確認してもらえるプログラム内容の検討が今後必要である。

## 発掘部会

### ◆部会のねらい

指導現場で必要・希望されている女性や若者の指導者を発掘・育成できるシステムの構築。

### ◆実施概要

育成推進委員会開催と同時に年間3回実施した。総合型クラブなど指導者を必要としている団体への働きかけを進めると同時に、指導者の活用場所確保や紹介できるシステム作りを検討した。

### ◆活動の様子



### ◆評価

各エリア別運営委員会の協力も得て、各地域での指導者発掘を試みたが目標である若者の発掘ができなかったため、今後はそうした年代の者が受講しやすい講習会形態の検討が必要である。

## 基礎講習会

### ◆講習会のねらい

基礎講習Ⅰでは、スポーツ指導者として身に付けておくべき基礎・基本の知識と技能習得し、地域の実態やニーズに応じた指導ができる人材を育成する。また、有資格者には常に最新情報が提供できる基礎講習Ⅱを実施しスキルアップを図り、指導者としての資質向上を目指す。

### ◆実施概要

指導者としての基礎・基本知識と技能の習得を目指し、2日間集中型と5日間分散型で難関2回実施。また、スキルアップを目的に「スポーツにおける法的諸問題」など4項目を各エリアに分散し実施した。

### ◆参加者数

### ◆活動の様子



### ◆評価

内容については、アンケート結果などから満足されていることがわかったが、テキストの表記形態の見直しが必要である。今後は、幅広い年齢層が受講しやすいよう開催日や時間について工夫する必要がある。

## テーマ講習会

### ◆講習会のねらい

子どものスポーツ離れ・体力低下が深刻化していることから、次世代を担う子どものスポーツ活動が生活習慣化できることを目的に実施した。

### ◆実施概要

自然が育む子どもの感性(自然体験を通じて挑戦・協力・我慢の体験する必要性)、子どものスポーツと栄養(調和の取れた食事の必要性)、指導者に必要なマネジメントとスキル(相手に受け入れられる伝え方と考え)の3つの内容で実施した。

### ◆参加者数

### ◆活動の様子



### ◆評価

アンケート結果では90%以上の受講者が満足との解答があった。子どもがスポーツ親しむ環境づくりにおいて、体を動かすことの楽しさなどスポーツ種目に限らず様々な方法で意識付けしていく必要性が実感できた。

## その他の取組

より地域に密着したシステムを構築するため、県内を4つのエリアに分け各エリアでスポーツ・健康関係団体や行政担当者など幅広い分野で委員を構成し運営委員会を開催し、各エリアでの課題や問題等について意見交換ができる場を設置している。また、その拠点となる各エリアに広域SC分室を設置している。

## 本事業の成果

1年目は基礎講習を年間1回の実施であったが、受講者の声と育成推進委員会での意見などから受講できる機会を増やし集中型と分散型の2回実施した。2回とも定員に達したことから、指導に関する興味や関心が高いことが見えた。また、指導者資格を取った後も常にスキルアップ(基礎講習Ⅱ)できる場の提供ができた。

## 本事業の課題と今後の取組

先に述べたように指導に関する興味を持っている者は多く、様々な講習会が身近で受講できるシステム作りが必要である。また、内容については各エリアの運営委員会を活用し、各地域で活かしていけるものにしていきたい。今後は、指導者を育成していくシステムは完成してきたので、そこで育った者が活躍できる場の提供について検討を進めていく必要がある。県独自の登録制度「スポーツ指導者NETしが」を広く県民に周知する必要がある。